

1. 片頭痛

① 症状・原因

片頭痛は、頭の片側に起こることが多いです。ズキズキと脈打つ激しい痛みが比較的急に起り、音や光に敏感になり、吐き気や嘔吐を伴うこともあります。月に1~2回、多い時で週に1回程度繰り返して起こります。頭痛は4~72時間くらい持続して、自然に治ります。

女性に多く、家族に頭痛持ちの人がいると起こりやすくなります。緊張型頭痛とは反対に、ストレスなどから解消されてホッと気が緩んで筋肉の緊張がとけた時に起こります。

片頭痛の前兆として、視野が欠けたり、光がチカチカするような現象が現れることがあります。

② 治療

<片頭痛の急性期治療薬の使い分け>

軽症~中等症	→ 非ステロイド系消炎鎮痛剤 (NSAIDs) 小児：カロナール 成人：パファリン330
中等度~重度 または NSAIDs 無効例	→ トリプタン系薬剤 イミグラン、ゾーミッグ、レルパックス、マクサルト、アマージ
即効性	: イミグラン皮下注射液、イミグラン点鼻液
吐き気のため服薬不可	: イミグラン皮下注射液、イミグラン点鼻液
外出先(水なし)	: マクサルトRPD、ゾーミッグRM(口腔内崩壊錠)
長時間作用型	: レルパックス、アマージ
吐き気を合併	→ 制吐剤 プリンペラン注射液、ナウゼリン錠、ナウゼリン座剤
トリプタン系薬剤で再燃 または 明らかな前兆期に服用可能	→ エルゴタミン製剤 (ジヒデルゴット、カフェルゴット、クリアミンA)

■ トリプタン系製剤

片頭痛発作時に拡張した血管を収縮させ、血管炎症を抑制する作用により、速やかに頭痛を改善する片頭痛治療剤です。経口薬、点鼻薬、水なしで服用できる速溶錠剤があります。トリプタン系製剤の服用時期ですが、頭痛発作のより早い時期に服用すると、効果的です。時期を逃さず、痛みが高度になる前に服用する事が、重要です。ですから、当院では、いつでもどこでも服用できる速溶錠剤、もしくは気持ち悪くなくても投与できる点鼻薬を処方しています。いつどこで起こるか分からない頭痛のために、いつも携帯していただき、飲む時期を逃さない対応が、片頭痛薬には求められます。でもトリプタン製剤は、痛みがピークになっても有効です。ので、ご安心ください。

ところが、トリプタン製剤には個人差があり、効果を示さない方もいます。その場合には、他のトリプタン製剤に変更する、もしくはエルゴタミン製剤を投与したりします。

・イミグラン

日本で最初に発売されたトリプタン製剤で、豊富な剤型と速効性が特徴の薬です。剤型は、注射剤、点鼻剤、内服剤の3種類です。服用後効果が現れるまでの時間は、注射薬で10分、点鼻薬で15分、内服薬で30分程度です。

効き目が速く、効果も強いことから重症の片頭痛患者に多用されています。特に、点鼻薬は速効性が高く、吐き気や嘔吐などの副作用も少ないことから、片頭痛患者で吐き気や嘔吐の症状を伴った人で内服の服用が難しい人、あるいは急激な発作時に適している薬です。

・ゾーミッグ

イミグランの次に発売された製剤で、内服薬、口腔内速溶錠の2種類です。経口投与における吸収が良好であり、少量で効果が得られます。

特に口腔内速溶錠は、場所や時を選ばずに水なしで口腔内に服用することにより、ラムネのように溶けて効果を発揮します。

服用後、人により眠気や全身倦怠感を認めることがありますが、一過性のもので症状的には強いものではありません。

・レルパックス

ゾーミッグ同様、少量で効果が得られる薬です。

剤型は、内服薬のみです。眠気やめまいなどの副作用出現率は低いですが、重症患者よりは中～軽症の片頭痛患者に適した薬です。

この薬は、効果の作用時間が非常に長く、再発率が低いと言われています。

・マクサルト

内服薬、口腔内崩壊錠の2種類の剤型で、服用後の効果の発現が速く(即効性)随伴症状の改善率が高いのが特徴の薬です。

24時間以内の再発率が比較的 low、副作用の発現も少ないという利点から、欧米では子供の片頭痛にも使用されています。

・アマージ

新しく発売されたトリプタン製剤で、内服薬のみの薬です。

この薬は、作用時間が12~24時間と長く、効目が緩やかで副作用が少ない点
が特徴です。従って服用したその日での再発がしにくい点も特徴です。

生理関連頭痛にとっても有効です。長時間効く飲み薬タイプで、ゆっくりと効いてきて、飲んで知らぬ間に頭痛が治まっていた、という感想の患者様が多いです。

<服薬上の注意点>

トリプタン製剤

- ・服用後は、他のトリプタン製剤やエルゴタミン製剤は24時間以上あける
- ・SSRIとの併用による副作用に注意
- ・RM錠、RPD錠は口腔粘膜からは吸収されないため、唾液で飲み込む
- ・狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、未治療高血圧は禁忌、高齢者に注意

エルゴタミン製剤

- ・妊婦、緑内障には禁忌
- ・週10錠以上服用するとエルゴタミン誘発性頭痛が出現する

エルゴタミン製剤は 前兆時に、トリプタン製剤は頭痛発作の早期、軽い頭痛のときに服用する

■ エルゴタミン製剤

外頸動脈系を比較的選択的に収縮させます。軽症~中等度症状の症例や、トリプタン系薬剤無効例に用います。この薬も発作早期に服用することが、大切です。効果が少ない時には、2時間開けて再度服用して、一日3回まで服用可能です。この薬とトリプタン系製剤を一緒に飲んではいけません。

エルゴタミン製剤の禁忌 : 妊娠・緑内障・虚血性心疾患

■ 非ピリン系解熱鎮痛薬・非ステロイド性消炎鎮痛剤

軽症の片頭痛には、有効です。効果は比較的少ないですが、安全性が高いため、治療薬として一般的に処方されています。この系統のお薬だけを、毎回頭痛発作のたびに、漫然と飲まれている方も多いと思います。

■ 漢方薬

漢方薬の中で片頭痛に効果がある薬剤を並べてみました。

1. 呉茱萸湯(ゴシュユトウ)
2. 桂枝人参湯(ケイシニンジントウ)
3. 五苓散(ゴレイサン)
4. 葛根湯(カクコントウ)
5. 苓姜朮甘湯(リョウキョウジュツカントウ)
6. 半夏白朮天麻湯(ハンゲビャクジツテンマトウ)
7. 桃核承気湯(トウカクジョウキトウ)
8. 麻黄附子細辛湯(マオウブッシサイシントウ)
9. 川キュウ茶調散(センキュウチャチョウサン)

③ 予防

<片頭痛の予防薬>

適応

- ・ひと月に10回以上の片頭痛発作
- ・生理前など予測がつく
- ・急性期の薬が禁忌：狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、未治療高血圧症など
- ・急性期の薬の乱用がある

薬剤

- ・エルゴタミン製剤：ジヒデルゴット
- ・生理前1Wのみ：レルパックス
- ・Ca拮抗薬：ミグシス、テラナス、ワソラン
- ・抗うつ薬：トリプタノール(三環系抗うつ薬)、パキシル(SSRI)

片頭痛の起こる頻度がひと月に10回以上の場合は、予防薬をもらって服用するとよいでしょう。

上記のトリプタン製剤も、エルゴタミン製剤にも、予防効果はありません。あくまで、発作が起こってから服用になります。でも、カルシウム拮抗剤、βブロッカーには予防効果があるとされています。

一方、1日に最低1回は予防薬を飲まないといけないわずらわしさがあります。予防薬は、最低2-6ヶ月は内服を続ける必要があります。

■ 片頭痛の予防薬は

薬効分類名	有効な頭痛	薬物名	主な商品名
	片頭痛	塩酸ロメリジン	テラナス、ミグシス

カルシウム拮抗薬	片頭痛 群発頭痛	塩酸ベラパミル	ワソラン
抗セロトニン薬	片頭痛、 緊張型頭痛	メシル酸ジメチアシン	ミグリステン
	片頭痛	塩酸シプロヘプタジン	ペリアクチン
β遮断薬	片頭痛	塩酸プロプラノロール	インデラル、ノルモテンス、ヘルツール
		酒石酸メプロロール	セロケン
		アテノロール	テノーミン
抗てんかん薬	片頭痛	バルプロ酸ナトリウム	デパケン、セレニカ R
抗うつ薬	片頭痛 緊張型頭痛	塩酸アミトリプチン	トリプタノール、アデプレス、レスリン

		クエン酸タンダスピロン	セディール
		マレイン酸フルボキサミン	デプロメール、ルボックス
		塩酸パロキセチン	パキシル

- 片頭痛は、食事や睡眠をきちんととらなかったり、睡眠のとりすぎなどによって起こりやすくなります。チーズやチョコレート、ワインなどは片頭痛を起こしやすくなると言われています。
- また、緊張型頭痛とは反対に、こめかみや目の辺りの血管を冷やすと痛みが和らぎます。片頭痛が起こったら、患部を冷やして光の入らない静かな暗い部屋で安静にしましょう。

トリプタン製剤



レルパックス



マクサルト



ゾーミック



ゾーミック RM



アマージ



イミグラン



イミグラン点鼻薬

鎮痛剤



カロナル



ナイキサン



ロキソニン



ブルフェン

胃薬（吐気止め）



プリンパラン



呉業菴湯



テルネリン



ミオナール

予防薬



デバケン R



インデラル



リボトリール



ミグシス



テラナス



トリプタノール